

平成28年6月30日
新旧データ接続検討WG

検討対象とする統計調査の範囲の明確化について

1. 利用者の視点も含め「サンプル替えに伴い遡及改訂する際の過去サンプルとの整合性確保のあり方」の検討が特に必要な統計調査は、月次又は四半期で行われる時系列を重視した統計調査である。

また、サンプル替えにより新旧接続の処理の判断が困難なものは、無作為抽出の統計調査である（※）。

したがって、月次又は四半期で行なわれる無作為標本の統計調査を対象とした考え方の整理を行なうこととしてはどうか。

2. 統計技術的に標準的な方法が用いられやすいのは、統計委員会でも審議が行われている基幹統計調査であることから、考え方の整理を行うにあたり、参考とする統計調査の現状の範囲は、上記 1. を満たす基幹統計調査としてはどうか。

<参考> 上記 1 を満たす基幹統計調査（9 統計調査）

家計調査、労働力調査、個人企業経済調査、
法人企業統計調査、毎月勤労統計調査、
商業動態統計調査、建設工事統計調査、
自動車輸送統計調査、内航船舶輸送統計調査